

メイクセラピー検定上級(1級・特級)について

●メイクセラピー検定上級の内容とレベル

○1級試験の内容

筆記試験（マークシート方式+記述式）…50分

マークシート方式の出題範囲は3級、2級テキストの内容も含まれます。出題形式はテキストの練習問題（p34～36）のような知識や技術の理解を問う選択問題と、テキストp36～38に掲載されているようなクライアントとメイクセラピストとの対話の事例を読み、設問に答える「対話分析」問題で出題されます。選択肢から選んで答えるマーク式です。

記述式は2級試験同様に、クライアントの状態に対してメイクセラピストとしてどのように対応するかが問われます。2級試験以上に難解な状態のクライアントが出題されますので、高度な対応力が求められます。

実技試験…40分

試験当日に発表される「オーダー」の印象になるようにクライアント役モデルの顔半分メイクを施します。1級試験の「オーダー」は実際のメイクセラピーの場面でのオーダーに近い具体的な出題です。メイクの仕上がりに加え、セラピストの態度や対応も審査の対象です。

【オーダー例】

『職場の後輩から「困っているときに、さりげなく声をかけてくださる気遣いに憧れる」と言われる優しい印象の女性（職業：看護師）』

○特級試験の内容

筆記試験（記述式）…30分

テキストp42～43に掲載されているようなクライアントとメイクセラピストとの対話の事例を読み、設問に答える「対話分析」問題で出題されます。設問に文章でこたえる記述式です。短い試験時間で設問に的確に回答するためにメイクセラピストとしての対応を熟知した上で言語化できる力や読解力が求められます。

実技試験…50分

実際に「メイクセラピー」を行っていただきます。クライアント役モデルに対してオーダーカウンセリングを行いオーダーをとり、そのオーダーの印象になるようにメイクを顔半分に施します。カウンセリングとメイクの時間配分に決まりはありません。受験者自身で判断してください。

合格基準は、実際にクライアントから「料金をいただけるレベル」のメイクセラピーかどうか問われます。

メイクは表面的に美しくすることが目的ではなく、クライアントに心理的な効果が与えられるような仕上がりになっていることが求められます。

1級、特級ともに化粧品を販売するための接客のような対応や、友達に接するような対応であれば合格できません。単なる美容行為ではなく援助行為であることがメイクセラピストとして持たなければならない自覚です。

● 実技審査項目と採点基準

○ マナー（1級・特級 共通）

メイクセラピストとしてふさわしい「印象管理」ができているかを身だしなみ・表情・言葉遣いから審査します。

過度に幼すぎたり、セクシーである場合は大幅な減点になります。また、デニムやブーツなど、カジュアルすぎるファッションも減点対象となりますのでご注意ください。

清潔感は必須です。爪、髪、洋服の汚れやシワなどに気を付けること！

また、表情や言葉遣いがフレンドリーすぎたり、逆に固く冷たすぎるのも減点となります。

※メイク用具が粉だらけの状態や指紋が付いているなど汚れている（汚れているように見える）と、減点となります。美しい状態で臨みましょう。

○ カウンセリング

※文中のカウンセリング技術の内容は本テキスト内の「カウンセリング実習」より学習いただけます。

1級のカウンセリング審査項目

● 受容的態度

温かみが感じられるかが最大のポイントです。クライアント役のどのような発言も一旦受容的に受け止めます。“受け止めている”ことが、審査員にわかるような反応をすることが大切です。審査員にわからなければ、クライアント役にも伝わっていないでしょう。また自身の話が多いと大幅な減点になります。

●ラポールの構築

本来のメイクセラピーではオーダーカウンセリングを行う前に素早く信頼していただけるようにセラピストが積極的に築きにくい姿勢が必要です。メイクセラピー検定1級試験では実技試験40分の時間を通じてセラピストが積極的にラポールを構築すべく働きかけることができたか、クライアント役が話しやすい雰囲気や安心感、信頼感を寄せている様子であるかどうかを総合的に評価します。

●カウンセリングマインド

1級試験ではオーダーカウンセリングを行いませんが、メイクの実技試験で目の前に対面する「あなたの受験に協力してくれるクライアント役」に対し、初めの挨拶から一貫してカウンセリングマインドを持って接することが重要です。人間関係を大切にする精神でクライアント役の不安や緊張を和らげ、安心してその場にいられる雰囲気を作ることができれば合格点に達するでしょう。

特級のカウンセリング審査項目 …1 級範囲に加え以下の項目

●積極的傾聴

ペーシング、促し、繰り返し、要約の技術が駆使されているかがポイントです。受験者自身はしっかり聴いているつもりでも、それが審査員に伝わらない限り採点されません。合格するためには、表情や口調など、積極的に傾聴していることが審査員に伝わるのが大切です。

●共感的理解

メイクセラピストとして最も重要な技術にも関わらず、試験となると殆どの受験者が共感性を失います。なぜなら、“時間内にメイクを仕上げなければならない”からです。時間を気にするがあまり、質問が多様に出て、まるでインタビューのようになってしまうケースが多いです。これでは合格できません。

共感のポイントは以下の3つです。

- 1) クライアント役から感情の言葉が出てきたら繰り返して共感する
- 2) クライアント役の気持ちを汲み取って共感する
- 3) クライアント役の気持ちを質問によって引き出す共感

オーダーカウンセリング中に、共感的理解を示す対応が全く見られない場合は大幅な減点となりますので要注意です。

●承認

オーダーカウンセリングを通じてクライアント役の様々な状況（過去、現在、未来）について話を聴くことになります。苦労した経験、乗り越えた経験、チャレンジした経験など、クライアント役の頑張りに対する承認の言葉をかけ忘れると減点となります。

●質問能力

閉ざされた質問と開かれた質問が使い分けられているかがポイントです。オーダーを明確にしたいあまりに、閉ざされた質問が多くなってしまいう傾向があります。開かれた質問を組み込み、クライアント役の自由な発言からオーダーを明確にしていく必要があります。また、好きな色やタレントなど、表面的な質問ばかり投げかけ、カウンセリングが深まっていけない場合は評価を得られません。コンプレックスやネガティブな感情に触れていくような質問は勇気が要りますが、メイクセラピーの場では必須となりますので試験の場でも思い切って投げかけてみましょう。

また、受験者の興味本位と取られる質問は避けましょう。

○メイクアップ（1級・特級 共通）

●パーツバランス

クライアント役の生まれ持ったパーツバランスによる印象とオーダーによる印象が逆の場合は錯視効果を与えるメイクをしていることが重要です。例えば、クライアント役が遠心で穏やかな印象を与えており、オーダーが自己主張のできる頼もしい女性という場合は、求心になる錯視効果を起こしましょう。

（※錯視効果を起こすのは必要な場合のみで必須ではありません）

また、あくまでメイクセラピーは「日常で施すメイクの提供」ですので、アーティスティックな仕上がりは減点となります。さらには、各パーツ（眉の形、アイメイク、チーク、リップ）の描き方・入れ方がオーダーと合致しているか審査対象となります。

●色の印象

色の持つ印象とオーダーの印象が合致していることが重要です。例えば、親しみやすい印象にするのにバイオレットのシャドーでアイメイクをした場合は減点となります。

また、色が肌から浮いて見える、または肌色に吸収されて色味が出ていない場合も減点となる場合がありますので要注意です。

●コスメティックの質感

オーダーの印象に適したコスメティックの質感を使用しているかが重要です。例えば、可愛らしく守ってあげたい女性というオーダーに対して、マットな質感のコスメティックを使用している場合は減点となります。

●仕上がりの丁寧さ

各パーツ（眉、アイメイク、チーク、リップ）が、丁寧に仕上げられていることが重要です。アイラインがにじんでいる、アイシャドーがむらになっている、リップが均等に塗られていない、マスカラがだまになっているなど、仕上がりが雑に見える場合は減点となります。

●ベースメイクの仕上がり

シミ、くま（オーダーによってはそばかす）がカバーされるように仕上げましょう。また、ファンデーションのムラやフェイスパウダーの粉浮きがないよう注意しましょう。クライアント役の肌の色に合うファンデーションを選ぶことも重要です。

●オーダーとの合致度

これが最重要です。仕上がりが美しくても、オーダーに合致していない場合は大幅な減点となりますので要注意です。クライアント役のお顔が生き生きと見えていると好評価となります。

○その他

クライアント役の方がまつ毛のエクステンション、アートメイクをされている場合は減点となりません。審査を受ける際に「エクステをされています」「アートメイクをされています」と審査員に伝えてください。

クライアント役の肌状態が良好でない場合も同様です。